

明恵上人の夢記ゆめのきとは比較にならずと雖も、余、時折夢の記録を試み約五年を経過せり。ノートを讀み返すに奇妙なる記事多し。曰く「京福電車、新幹線を牽引す」、「テント内にてのパイにエリザベス女王現る」「硫黄島に勤務、觀測業務に當る」「氣功の稽古中に竹蜻蛉飛ばせし人あり。余も飛ばし返す」「瞑想状態を見るモニターの發明あり」云々。

兄の會社の移轉せる夢を見き。其二年後には實際に引越あり。豫知夢なりや。

意味有り氣なれども意味不明の物多し。「臺灣人の友人と食事す。他に女性有り。蟻の數甚だし。友人の臺灣より連れ來し物ならん。自宅より來たるとはよもや思はず、と女性云ひたり。」蟻、何を象徴せりや。

空中に浮揚す。體全體痺れたり。兩手にて氣のボール作れり。半ば目覺めたる状態にて、「後一步にて體外離脱なり」とぞ思へる。

足重くして歩く事能はず。兩手にて地面を引搔きて進めり。これ屢しばしば見る夢なり。

スキーの夢時折見るなり。スキーを履かずして靴或は裸足にて滑走するも有り。

山中をよく夢有り。夢の中には馴染の場所なり。されど實際には心當無し。

英語辭書引く夢 屢 見ぬ。當該單語如何いづかな見當らず、其の内「是は夢なり」と氣付きけり。「夢の中の辭書なれば正しからむ筈も無し」と思へり。單語見出したる場合も意味綴り等記憶せず。知らぬ單語を夢に辭書を引きて、意味も正しからば甚だ面白き事なれど、斯かる事例未だ記憶せず。

腹立たしき事著し。憤懣遣る方無し。心拍數増加し顔面紅潮す。されど程無く是は夢なりと氣付きけり。「あゝ夢なりや。夢なれば斯なる腹立ち實に虚しく無意味なり。」現實の立腹も夢の立腹と然したる相違或は無きやも知れず。腹立つる事の虚しさ夢に教授せらる。